

# 日本学術会議 電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会（第26期・第3回）

## 議事要旨

日 時： 令和7年3月14日（金） 10:00～12:00

場 所： 日本学術会議 Web会議

出席者： 青柳みどり，岩崎誠，岩船由美子，大崎博之（委員長），北裕幸（幹事），熊田亜紀子  
佐藤育子，竹内敏恵，柘植隆宏，長谷川浩巳，藤崎泰正，藤本博志，  
村上俊之（副委員長），安田恵一郎（幹事），山中直明  
(50音順、敬称略、欠席者は取消線)

議 事：

### 1) 前回議事要旨の確認（資料1）

北幹事から、前回分科会の議事要旨について説明があり、内容を確認した。

### 2) 話題提供1（資料2、資料5）

青柳委員から、資料2および資料5に基づき「エネルギー問題をめぐるリスク・ガバナンス～世論調査から見たエネルギー問題～」に関する話題提供が行われた。エネルギー問題に関連する技術開発に需要者（世論）を巻き込むこと、すなわちエネルギー民主主義に関する議論や、「脱炭素」のリスク・ガバナンスやイノベーション・トランジションとしての位置づけ等について紹介いただいた後、意見交換が行われた。

### 3) 話題提供2（資料3）

長谷川委員から、資料3に基づき「カーボンニュートラルと電力系統安定化に向けた家庭用ヒートポンプ給湯機の役割と課題」に関する話題提供が行われた。家庭用ヒートポンプ給湯機の普及状況とデマンドレスポンスとしての可能性、家庭用蓄電池や電気自動車との特徴比較、等について紹介いただいた後、意見交換が行われた。

### 4) 社会における専門性の高い人材の育成について

村上副委員長から、「社会における専門性の高い人材の育成」に関する課題等の提示がなされた。大学における理工系分野が減少してきている中で、理工系人材や博士人材の数をいかに増やしていくかが課題。大学としての基幹教育を維持しつつ、大学、国、産業界が協力して、社会における専門性の高い人材を育成していく場をどのように提供するかについての議論が必要。また、ダブルディグリーやジョイントディグリーなどの国際的な人材育成も考慮していく必要がある。等の問題提起がなされた。次回以降の分科会において、より踏み込んだ議論をしていくこととなった。

### 5) その他（資料4）

大崎委員長から、前回分科会から現時点まで、第三部会および電気電子工学委員会は開催されていないとの報告があった。

また、大崎委員長から、資料4に基づき、2024年11月以降の日本学術会議に関わる動きについて次のように報告が行われた。12/13, 3/1の会員説明会において、日本学術会議の在り方および法人化のための法案の検討状況等について説明がなされた。これらに関連して12/22, 12/27, 3/7に会長談話が発出されている。一方で、3/7には法人化法案が閣議決定された。今後3月下旬から4月上旬に会員説明会が予定されており、将来に向けた議論が行われていく。さらに、大崎委員長から、カーボンニュートラルに関する連絡会議に今後も参加することとなった旨の報告がなされた。

次回委員会：2025年6月～7月を予定（2時間程度、オンライン）。議事内容：人材育成に関する議論及び委員からの話題提供に基づく意見交換、等。

以上

<配布資料 >

資料0：議事次第（第26期・第3回）

資料1：日本学術会議 電気電子工学委員会 制御・パワー工学分科会（第26期・第2回）  
議事要旨

資料2：青柳委員からの話題提供資料1

資料3：長谷川委員からの話題提供資料

資料4：2024年11月以降の日本学術会議に係る動き

資料5：青柳委員からの話題提供資料2